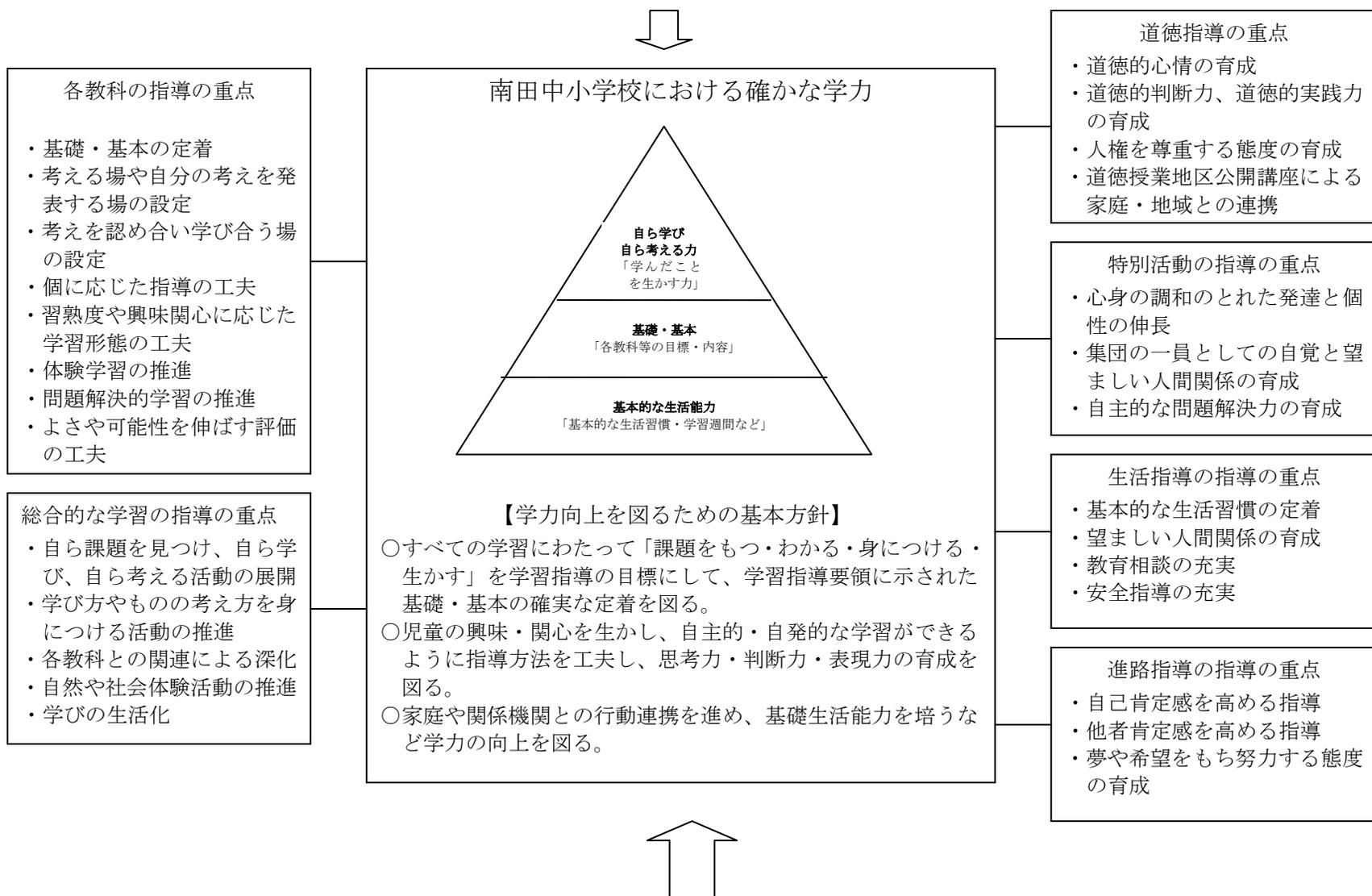
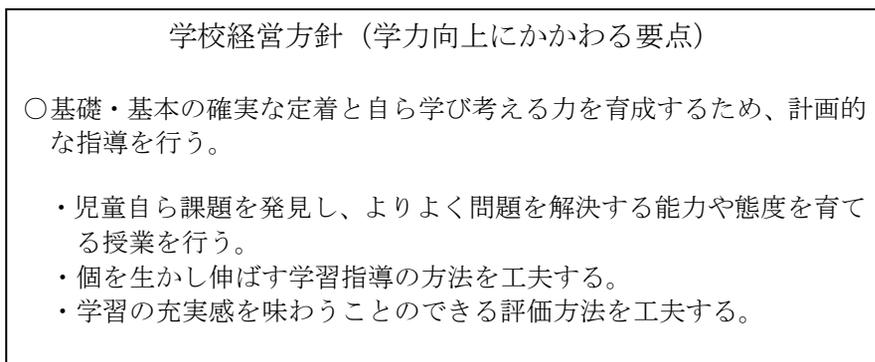
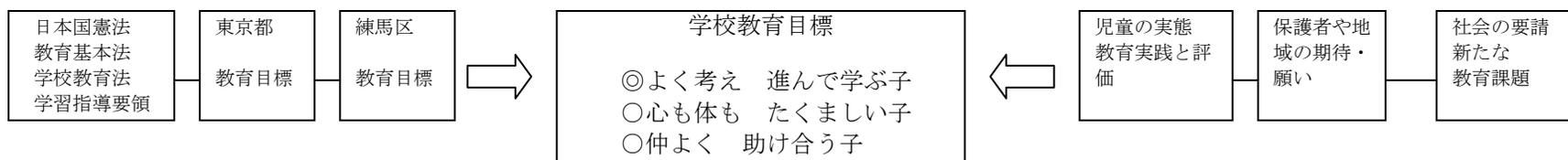


学力向上を図るための全体計画



本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・体験的・問題解決的な学習を重視し、児童の意欲を大切に、学ぶ力の育成に努める。 ・算数の少人数授業を中心に、個に応じた指導の工夫に努める。 ・発展的な学習、補充的な学習の充実を図る。（「夏休み教室、放課後学習」など） ・考える力を高める学習活動を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習、朝読書の時間を計画的に行うとともに、基礎学力の定着や表現力の育成に努める。 ・余剰時数を多く設定することにより、基礎的・基本的な学力の定着を図る。 ・校庭環境を活用して学習指導の工夫を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の校内研究を充実させ、日々の授業に生かす。 ・日常的な授業公開を行い、教員相互の授業参観及び授業評価を実施する。 ・学期一回生活指導や人権尊重教育に関する研修会を行い、指導に生かす。 ・一人1研究を行い、研究の成果を発表し合う。 ・自己申告書に基づいた実践力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科における評価計画及び評価基準の見直しを図り、適切な評価を行う。 ・児童一人一人の肯定的な評価や個を伸ばす評価を工夫する。 ・学校公開の保護者の感想、学校評議員や保護者の外部評価を生かす。 ・児童による自己評価を生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期3回の学校公開を実施する。 ・日常的な授業公開を通して、保護者がいつでも参観できるようにする。 ・道徳授業地区公開講座を実施する。 ・学校評議員会を年4回実施する。 ・地域行事に積極的に参加する。

